



発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

東北教区報 2024年9月号

あけぼの

シリーズ「東北の信徒への手紙」
 しじゅうはつちや ひやくねずみ
四十八茶 百鼠

司祭 ヨハネ 八木 正言



立つて反抗することはありま
 せんでしたが、定められた範
 囲内でお洒落を楽しめるよう
 に工夫したそうです。

庶民の着物は、素材は綿も
 しくは麻、色は「茶色」「鼠色」
 (灰色という呼び名は火事を
 連想させるため「ねずみ色」
 というのが一般的でした)「お
 納戸色」の3色に限定されて
 いました。「お納戸色」とい
 うのは、納戸の扉を開け
 たときの薄暗がりの色で、濃
 紺に近い色です。普通、色は
 二次元の世界なのに、日本人
 は空間に色をつけてしまった
 のです！

この言葉が生まれたのは江
 戸時代です。長きにわたって
 平和を謳歌した江戸時代は、
 生産性が向上し、庶民の生活
 もかなり豊かになっていたよ
 うです。ただ、それを面白く
 思わなかった為政者たちは、
 幾度となく奢侈(贅沢とい
 う意味)禁止令を発令した
 といえます。それは「芝居を
 見に行くな」「米を食べるな」
 「絹物を着るな」など庶民の
 生活全般にわたりました。着
 物に関しては、色・柄・素材
 など、細かい規定が設けられ
 ました。

人々は、為政者に対して表

江戸時代の庶民たちは、こ
 の許された3色に、自分たち
 のセンスのすべてを注ぎ込み、
 それぞれの色の中に微妙な色
 調を工夫して着物を染め上げ、
 バリエーションを楽しんだそ
 うです。そしてこの3色の中
 でも、特に茶色と鼠色の中に

多彩な色合いが生まれ、新し
 い呼び名がつけられました。
 海老茶、白茶、江戸茶、蒲茶、
 鶯茶、千載茶、団十郎茶、利
 休茶……。語呂合わせで四十
 八茶と呼んでいます。実は
 茶色だけで100種を超える
 色があるそうです。鼠色に関
 しても、藤鼠、茶鼠、江戸鼠、
 利休鼠、桜鼠、梅鼠、源氏鼠、
 鳩羽鼠……と100色以上あ
 ります。

日本にこれほど多彩な色が
 あるのは、足枷のある限られ
 た自由の中で、お洒落を楽し
 むとセンスを磨いてきたか
 らといえるのではないでしょ
 うか。微妙な色彩の違いを見
 極め、そこに工夫を凝らした
 のです。

また庶民でも経済力のある
 人は、着物の表地はお上のお
 触れに従って地味を装いな
 がら、裏地には禁止されている
 正絹や派手な染め色を用い、
 隠れたところに贅を尽くすこ
 とで、江戸っ子の意地を通し
 ました。裏地のお洒落は江
 戸っ子好みの「粋」であり、
 ちらりと垣間見えるそれを見
 逃さず気づくことのできる人
 が「通」、逆に、それをひけ

らかすのは「野暮」と笑われ
 たのだとか。

環境を「呪う」のではなく、
 その環境に「乗ろう」とする。
 足枷があっても、逆にそれを
 ゲームのルールにして遊んで
 しまう。日本人は楽しむ天才
 なのかもしれません。「獄に
 あっては獄の中でできること
 をする。獄を出たら、出てで
 きることをする」とは彼の吉
 田松陰の言葉ですが、どんな
 時にも、そこでやれることを
 やるだけだ、というわけです。
 いつでも、今やれることの積
 み重ねで奇跡は起こせるのか
 もしれません。

さて、東北教区の各教会が
 おかれた現況、そして未来は、
 普通に考えれば決して、明る
 いとは言えないのかもしれ
 ません。信徒、聖職の数は減
 少の一途をたどり、それに
 伴って財政も逼迫しています。
 しかし、それでも……、今も、
 いつも、これからも、やれる
 こと神のみ旨を求め、それ
 に聴き、派遣された地でこれ
 を実践することの先に、新し
 い扉は開かれるのかもしれない、
 そう信じたいと思います。

(仙台基督教会牧師)

「雨宮春子さんのお話を聞く会 ～ヴァイアル山荘にて～」開催

東北教区婦人会 会長 ソフィア 赤坂 康子

青空の広がる6月29日(土)、札幌聖ミカエル教会の信徒でJOC S (日本キリスト教海外医療協力会) ワーカーとしてタンザニアのタボラ州で5年のお働きを終えた雨宮春子

越山香菜子さん伴奏で聖歌489番を歌い礼拝を献げ、その後、各自好きな場所で昼食。13時からパイプ椅子と座布団を部屋いっぱいに敷き詰めて、プロジェクトを用い

てのお話を伺いました。雨宮さんは日曜学校のキャンプで「発展途上国では自分と同じ年の子どもたちがこんな生活をしている、大きくなったらそんな国に行ってみよう」と思ったのがワーカーを目指したきっかけだったそうです。



看護師、助産師の資格を取り医療経験を積み、スワヒリ語を学び、タボラに単身派遣されました。トウモロコシ粉を主食とした一日2食の生活。病人はロバで運ばれる。多くの子どもたちはひどい貧血と栄養失調。医療水準の低い環境。でも隣人同士で助け合い

生活している。その現地の人たちの中に入り、共に生活をされました。コロナ感染拡大で日本に帰国せざるを得なくなり、オンラインで現地とのやり取りを継続。「赤ちゃんの命が助からないのは日常のこと、だから気にしなくていい」という雰囲気の中、雨宮さんの指導が生かされ、現地のスタッフたちに、学べば救える命があると気持ちが一つになってきたことを感じられた時は、とてもうれしかったそうです。「ハロー！イエス！新生児と妊婦さんの死亡は許容できない。みんなで団結して根絶しよう」と合言葉を元気に皆で唱えている動画を見せていただきました。14時半に閉会。お母様の雨宮壽子さんと、青森空港から運転していらしたレンタカーで盛岡へ、一泊なさり、次の日の

盛岡聖公会「み言葉の礼拝」で勧話をしてくださいました。お父様の雨宮大朔司祭が春子さんに残した言葉、「ひとりの命の誕生の喜びと、この世に生を授かりながら死に向ってしまふ命へのいつくしみの心」についてのお話が印象に残りました。

「出会いと交わりの日」

「出会いと交わりの日」は2017年から北海道教区で行われている交換説教プログラムです。今年は東北教区にも声をかけていただきました。教役者会で相談し、6月30日、函館聖ヨハネ教会に李贊熙司祭が、北海道教区からは上平更司祭が青森聖アンデレ教会を訪問し、共に礼拝を献げました。

「新たな出会い」

司祭 ドミニコ 李 贊熙

私が函館聖ヨハネ教会と出会ったのは東日本大震災で大きな被害を受けた釜石でのボランティア活動時でした。この時一緒に活動したのが昨年亡くなられた函館のダビデ藤井八郎司祭でした。

今回函館の教会を訪ね、開かれていた教会の模範を見ることができたのが一番うれしいことでした。この日は聖餐式後、観光客や地元の人たちのためJAZZコンサートがありました。同じように観光地域にある教会として、弘前昇天教会としても良いアイデアを見つけられました。今後リー

ドルガンコンサートや共同プログラムなどを計画し、互いに訪ね合う関係になることを願います。何よりも信徒皆さんの温かいお心に感謝します。

青森聖アンデレ教会

マーガレット 福田 優美子

6月30日「出会いと交わりの日」に北海道教区から上平更司祭が当教会で礼拝と説教をしてくださるという情報以外は聞かされず、どんな司祭様だろうと想像しながら当日を迎えました。初めてお目にかかった司祭様は、みんなが思っていたよりお若く、語る声は優しく穏やかで清涼剤のように爽やかに届きました。悩んでいる時、辛さ苦しさはイエス様に自分の口から話をした方が良く、イエス様はそれを聞いてくださるといってお話でした。神様からの沢山のメッセージを託されている雰囲気を感じ、様々な質問もすべてしっかりと応えてくれる心の深さ、人間力に傾倒しました。違う司祭様がいらっしやることで、聖堂の空気感や礼拝でのイエス様への向き合い方も、いつもとは違ったものに感じました。大切な出会いに感謝いたします。



北海道教区

クララ 吉谷 かおる

北国にも夏が到来。5月以降の「チーム北国」の活動を報告します。コアメンバーのミーティングは対面とオンライン交互に毎月行われていきます。月に一度オンライン・ミーティングを行っている「宣教協働」「広報」「組織」「財政」の4つのセクションは、この間にそれぞれ対面でのミーティングも実施しました。

教区間の交流としてはまず、5月14日、16日に仙台で合同教役者会が開催されました。その時の写真を載せたりフレッツが発行されましたので、両教区の先生方のお顔とお名

前を覚えていただければと思います。長谷川主教・笹森主教のメッセージ、「ミッシェン・ステートメント2023」もどうぞお読みください。

6月9日には「大館の教会の物語を聴く会」が開催され、大館聖パウロ教会からの生中継を各教会がオンラインで視聴しました。後日DVDでの視聴もできるようにしました。信徒の皆さんのお話に励まされたという声が多く聞かれました。

6月30日北海道教区「出会いと交わりの日」に、李贊熙司祭が函館聖ヨハネ教会へ、上平更司祭が青森聖アンデレ教会に派遣されました。今後このような交流が拡大されるのが期待されます。

7月15日の北海道教区宣教150周年記念礼拝に、東北教区から9名が出席。両教区が親睦を深める機会にもなりました。

今後は11月の教区会に向けて組織や財政に関する検討を進めるとともに、宣教協働のための楽しいプログラムを企画していきます。

北海道教区宣教150周年記念礼拝・訪問記

チーム北国メンバー 仙台基督教会 ヨハネ 瀧口 勝

東北教区からは総勢9名、私はチーム北国の広報セクションメンバーとして、7月15日(月)の北海道教区宣教150周年記念礼拝に参加するため、札幌キリスト教会を訪れました。

記念礼拝当日の札幌は晴れて最高気温30℃と真夏の暑さでした。北海道の各教会から信徒の方々が大勢来られ聖堂には入りきれず、後に聞いた話では400名近い人たちがこの記念礼拝に集ったとのことでした。笹森田鶴主教司式のもと、東北教区の長谷川清純主教が補式、八木正言司祭が分餐、福士恵美さんが東北教区のパナー(旗)を持って入退堂しました。西原廉太主教(中部教区)の説教では、英国聖公会宣教協会(CMS)から派遣された宣教師による函館での福音宣教から始まる北海道教区150年間の宣教の歴史、これまでのCMS、アイヌ、中部教区との関わりなどが語られました。

礼拝後には場所を移して祝賀会が行われました。会場入り口では北海道教区150周年記念グッズを販売しており、その隣で東北教区から持参した主の祈りポストカード、カナン園のみことばせんべいも一緒に販売させてもらい、完売となりました。祝賀会の最後には150周年記念のために作られた新聖歌「ピリカ・レラ・モシリ」(美しい風の大地)を皆で歌い、150周年のテーマである「歩き続けよ、福音の道を」を一斉に唱え、祝賀会を閉じました。

これまで画面越しでしか会えなかったチーム北国のメンバーの方々と直接顔を合わせ、交流を持ち、親睦を深められ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。北海道教区宣教150周年記念礼拝に参加させてもらえたこと、新たな人との出会い、全ての出来事に感謝し、今後もチーム北国の一員として積極的に活動していきたいと思えます。

地図の上では北海道の中部、南空知に位置する岩見沢市にある教会です。文教地区に教会はあり、近隣に教育大学、農業高校、西高校、中学校があります。2007年1月に美唄聖アンデレ教会(1895年宣教開始)と岩見沢聖十字教会(1966年宣教開始)が合併し、新教会として歩んでいます。毎主日、併設の聖十字幼稚園内聖堂にて平均7名前後の出席で礼拝をおさげしています。

学生、生徒、ことに園児のために祈る教会です。



岩見沢聖十字教会





秋田聖救主教会

秋田聖救主教会では、6月から礼拝後の愛餐会が再び開かれるようになりました。コロナ禍により4年以上も人々が集う様々な活動に制限がありました。が、徐々に教会の皆さんと囲む「温かい昼食」と「弾む会話」。心が癒され、また徐々に教会に来た方からも近況を伺うことができ、改めて繋がりを感じるひと時でした。まだ月1回ではありますが、これから礼拝後にコーヒーや紅茶を囲んで、教会の皆さんとの時間が増えればうれしい限りです。

ある日曜日の礼拝、東京から来たという女性が後ろの席に座っていました。聖公会の方でした。すぐに帰られたので、どこの教会か聞くことができませんでしたが、「もし愛餐会に参加してくださる時間があったら……」と考えると、そこから広がる繋がりは無限

大です。これから、まだ見ぬ可能性に希望をもって、能代や大館など県内の教会にも、機会を見つけて訪れてみたいのです。

米沢聖ヨハネ教会

6月の下旬、梅雨前線が山形県南に停滞し、大雨が米沢地方を襲った。今日は「み言葉の礼拝」。教会のトタン屋根を大粒の雨が激しくたたきつけ、礼拝堂内に大きな雨音が響いた。礼拝堂の天井を見上げると縦横の太い柱とトタン屋根の裏板がむき出しに見える。時折、礼拝前の信徒さんたちの会話がかき消されるほどだった。礼拝が始まってもし音が激しくなるばかり。「これでは礼拝での朗読や信徒さんのお話は聞きにくいだろうなあ」と心配した。

ところが、何と不思議なことに。聖書朗読と、信徒さんがある司祭さんが書かれた文章についての話を始めると、雨音が静かになって鮮明に聞こえるではないか。礼拝が終わって外に出てみると、先ほどまであんなに激しく降っていた雨がすっかり止んでいた。教会の前にできた水たまりに

真っ青な空と白い雲、そして向こうに見える電柱のてっぺんが十字架に見えた。

常置委員会報告 (第9回・7月19日)

報告事項▼常置委員長報告…6月19日に開催された「大館の物語を聴く会」について、北海道・東北両教区の教会から、感想等が寄せられている。協議事項▼旅費ガソリン単価について…12月31日までの引き上げ期間延長を承認。▼慶弔規程の一部改正について…文言の一部改正を規則・規程グループに提案。受諾されれば、遡ってこれを承認する。▼北海道教区宣教150年記念礼拝への祝儀拠出を承認。▼日韓聖公会宣教協働40周年記念大会参加者について…管区青年枠として弘前昇天教会信徒1名、教区代表枠として赤坂聖矢氏が参加することを承認。▼教区施設・土地関係の工事の実施について…仙台市小松島地区フェンス等設置工事の実施を承認。▼台湾地震により被害を受けた台湾聖公会への支援について…各教会からの献金に加え災害支援資金より100万円の拠出を承

認。▼第109(定期)教区会の公示日を、9月2日(月)とする。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

7月17日の水曜喫茶は6名の参加でした。

お茶とお菓子は重要なコミュニケーションツールです。この日も手作りのシフォンケーキやバターケーキがテーブルに並び、抹茶も加わって更に満足感が増します。ひとしきり近況報告のおしゃべりに興じながら、互いの元気を確かめます。開設以来かさねず心のこもった差し入れを送りくださいました名古屋柳城女子大学の皆さんからの、お菓子でのご支援は今回で一区切りとなります。会の終わりに全員で感謝しながら礼状を書きました。

名古屋柳城女子大学の関係者の皆さまから長い間いただいた励ましに、紙面をお借りしまして深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

洗礼おめでとう

クララ 佐藤 萌野
(7月28日・弘前)

初陪餐おめでとう

クララ 佐藤 萌野
(7月28日・弘前)

永遠の平安

ヨハネ 松倉 修司
(7月6日・郡山)

9月逝去者記念聖餐式
9月4日(水) 午前10時
於 主教座聖堂
司式説教 長谷川清純 主教

- 宣教師 Miss Ellen McKrae 1921年9月6日逝去
- 執事 森 録次郎 1934年9月10日逝去
- 司祭 結城 光雄 1973年9月10日逝去
- 司祭 James Chappell 1954年9月16日逝去
- 主教 コルネリオ 田崎 安男 2009年9月22日逝去
- 伝道師 ルツ 高橋 菊代 1954年9月23日逝去
- 司祭 志賀 清光 1935年9月25日逝去
- 司祭 ルカ 釜薙 東祐 2002年9月27日逝去
- 司祭 ヨハネ 小野 俊作 2023年9月28日逝去